

第２回茨城沿岸海岸保全基本計画改訂検討委員会

議事要旨

1. 日時：平成 27 年 10 月 16 日（金）13：30～16：00
2. 場所：ホテル テラス ザ ガーデン 水戸 4F シルバースクリーン
3. 議事
 - (1) 第 1 回検討委員会について
 - (2) 茨城沿岸海岸保全基本計画（改訂原案）について
 - (2－1) 茨城沿岸の現況と課題
 - (2－2) 海岸の保全に関する基本的な事項
 - (2－3) 海岸保全施設の整備に関する基本的な事項
 - (2－4) 適正な海岸利用に向けた管理内容 ほか
 - (3) 今後の予定
4. 議事要旨
 - (1) 第 1 回検討委員会について
(意見なし)
 - (2) 茨城沿岸海岸保全基本計画（改訂原案）について
 - (2－1) 茨城沿岸の現況と課題
 - 鉄筋が入っていない護岸がどこにあるかなど、施設の履歴を記録に残すことは重要である。
 - 異常な高波というのはどういう定義か、根拠を記載しておくべき。
 - 地盤沈下により越波が生じやすい状況とあるが、震災直後の地盤の沈降なら、それは震災以降回復している箇所もある。
 - 海岸保全施設の老朽化については、もともとの構造がどうなっているかわからない施設もある中で、管理をしていかなければならない苦しい面がある。
 - 区切られた管理境界を越えた土砂移動が生じるため、土砂移動の連続性を保つためには事業間の連携が必要ということである。

- 改訂の背景については、東日本大震災ともうひとつ、維持管理の観点が重要な点となっている。
- 銚田市の景観資源が資料に記載されておらず不自然に感じる。
- 海岸保全区域と重複して都市公園区域があるなど、事業間連携が必要な箇所については、是非いい調整事例をつくってほしい。
- 侵食が顕著な海岸の写真については、侵食の進行状況がわかるなど工夫した記載とするとよい。
- 現況と課題の項の冒頭に、茨城沿岸の海岸をどういうふうにみているのかという防護・環境・利用のレビューがあるとよい。

(2-2) 海岸の保全に関する基本的な事項

- 公共施設の長寿命化、老朽対策は大きな課題になっている。予算要求のベースとなる基本計画が必要と考えている。
- 海岸保全の方向の前文は、防護・環境・利用の3つの観点からバランスをとるなどの包括的な文言があるとよい。
- 総合土砂管理やゴミの問題など、河川に関わることで気をつけるべきこと、河川の影響範囲などの捉え方などを、各海岸の計画のところに反映できるとよい。
- 総合的な防災・減災対策の推進については、それぞれの自治体の方が読んだ場合に、L2 対応に向けた行動につながるような表現が必要である。
- 神栖市の国県道は、津波の被害に合う可能性があり、緊急用避難道路としてどの道路を使うかという観点で、千葉県側の国道126号線を含めた防災計画を立てられないか、検討しているところである。
- 優先度の高いところがどこというように、選択と集中をすることになったときに、バックデータをきちんとそろえて、地元説明もできるようにしていくしかない。
- 生物データなどで意思決定がされることは事実上難しく、人間にとって理解できる人間と自然との関係、みんなが守ってほしいと思う文化的な積み重ねがあるところに優先度は出てくる。

(2-3) 海岸保全施設の整備に関する基本的な事項

- 整備方針に、土砂供給や養浜、サンドリサイクルを行うという記載を入れるべき。砂を適材適所に入れることと、あるべきところに施設をつくることを同時並行にやらないと、侵食対策はうまくいかない。
- 海食崖を守ると、その一方で砂浜が足りなくなる場所が生じる。ある場所を整備すると、隣の砂浜が脆弱となる場合があるなど、予防的な観点からの記述があるとよい。
- 工事は隣接区間にマイナスの影響を与える場合があることを想起することができるような予防措置的な記載があるとよい。
- 常日ごろから合意形成や、それらを想定した景観検討、まちづくりをしていけるとよい。兼用工作物の整備についてもふれておくと、胸壁に限らず防災を講じることができる可能性が出てくる。
- 前回の法改正で砂浜を海岸保全施設に指定できることになった。現存する砂浜の防護効果などをきちんと評価できるように、情報収集をしたり、計測をしたりということが必要になる。
- 関係者が努力して海岸を守っていかないと維持していけないということを伝えて、そのうえで美しい海岸を守っていくという共通理解がえられるといい。

(2-4) 適正な海岸利用に向けた管理内容 ほか

- 海岸法の改正では、海岸協力団体の指定や協議会の設置などが加わった。協力団体が、海岸保全の調査・研究を担えるケースがある。
- 協議会は、いい技術者、いい情報提供者がいて、いい議論が出来れば生産的である。また、海岸管理者として、地域の意見をきいたり、合意形成をしていく力をつけるひとづくりの観点も重要である。
- 地域の知恵を盛り込みながら、時間をかけて地域と協議をしていくと、維持管理や避難の問題も上手くいく方向となり、トータルコストがさがり、いいものができる。行政でも、住民でも、相手を尊重する姿勢がないと協議会は上手くいかない。
- 自分が住んでいる地域の海岸の情報、やろうとしている取組みがHPで簡単にみられるなどの工夫（サービス）があるとよい。
- 東京オリンピックでサーフィンが正式種目に選ばれた。5年後、大洗の海岸に波が立つのか心配である。5年後、大洗の海岸でオリンピックができるといい。

- サーフィンが出来なくなったということは、徐々に海底地盤が削られているということである。砂がどんどん減っていくという状況をなくしていかなければならない。
- 茨城の海岸の自然について掲載しているが、データの不ぞろいや新しい情報と古い情報の混在がある。
- 環境の施策はもう少し、書き込んで欲しい。

以上